

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501289
法人名	有限会社ミキハウス
事業所名	グループホームしおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島1丁目7番27号
自己評価作成日	平成22年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

我が施設においては、暮らしやすさと安心の介護体制、日々の生活を積極的に過ごし、ゆっくりと憩うことのできる場所を提供するために、生活上のお手伝いはもちろん、イベントやアクティビティーも豊富に用意しており、また医療体制も協力医療機関との連携を蜜にして安心のサポート体制を行っております。日頃より笑いの絶える事のない和やかな雰囲気 で心安らぐ優しい気持ちで入居者に接するように職員一同心がけております。地域との交流も盛んに行い校区内で行われる行事には積極的に参加し地域の方々 と親睦を深めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者にとって和やかで安心できる場所であるよう、利用者との信頼関係をしっかりと構築し、研修にも力を入れサービスの質の向上に全職員で努めている。家族会を年2回開催し、ホームの取り組みや利用者の様子を見てもらい、意見や要望を聞き取り取り入れるように努めている。地域との交流も運営推進会議を通じて行われており、地域の民生委員がボランティアで絵手紙教室を行ってくださっている。また、ホームの周りには他の介護事業所があり、お茶会等の交流もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームしおさい

(ユニット名) ユニット1

記入者(管理者)

氏名 伊藤 正己

評価完了日 平成22年 11月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員でスタッフ会で話し合い、事業所独自の理念をつくり、管理者及び職員はその理念を常に念頭に置き、業務にあたっている。	
			(外部評価) 地域との交流を理念に追加し地域の行事に参加するなど、つながりを大切にしている。職員と一緒に考えた理念が実践できるよう職員の体制を整え、利用者が笑顔で暮らせるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の自治会や行事等にも積極的に参加し、ホームに来て下さった、ボランティアの方々等、地域とのつながりを大切にし、交流するように努めている。	
			(外部評価) 地区の文化祭に出展する等、積極的に地域の行事に参加し関わりを持っている。近所の介護事業所の利用者をお招きしてお茶会を開くなどの交流を通じて、地域の福祉事業にも貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人からの電話相談にも積極的に応じている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、行事、入居者の近況報告、研修報告などを行い、情報交換を積極的に行い、そこで出た意見は施設にて検討し、サービス向上につなげている。	
			(外部評価) 行事や研修、職員の異動等の細かな報告や様々な情報交換、参加者との意見交換を行っている。利用者家族の参加を中心に日程の調整を行っているため、開催回数や参加者のメンバー構成に課題がある。	前回の会議で上がった課題についての取り組みの状況報告等も記録に残せるよう様式等の検討を期待したい。また、開催回数を2か月に1回の割合で開催するよう努め、参加者の構成も多角的な意見を求められるような色々な立場の方に参加してもらおう等の取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者とは運営推進会議以外においても、電話や介護保険申請にうかがった際に、解らないことや困ったことについて相談・助言を頂いている。	
			(外部評価) 毎年、市が行うアンケートに協力している。毎月、市担当者とは入居状況を報告している。また、毎月のグループホーム連絡会には市職員も参加し、ケアプラン、監査、加算、身体拘束等テーマを決め研修会を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間の防犯目的の施錠以外、身体拘束につながるケアは行っていない。	
			(外部評価) 身体拘束をしない方針を掲げ職員全員で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。管理者は普段から職員の声かけや介助の仕方について、身体拘束に当たるようなことがないよう気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事務所内での虐待は考えていない。 高齢者虐待防止関連法について、外部研修に参加している。さらに施設内での勉強会も行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及び職員は、成年後見制度や日常生活自立支援事業等、権利擁護に関する制度について研修やスタッフ会を通して学び、必要な人にはそれらを利用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は、十分な時間を取って家族や利用者本人の不安や疑問点の解消に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員の受け入れを行うなど、入居者の思いや意見の把握には日ごろより努めている。 また、年2回家族会を開催し、家族さんと話し合いを行い家族さんの意見を運営に反映させている。 (外部評価) 家族会を年2回開催し利用者の様子を見てもらい、意見や要望を聞き取っている。毎回10家族程度が参加している。また、普段の面会についても可能な限り来てもらえるよう伝え、預かっている現金の確認をしてもらう等、家族との関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に3回行っているスタッフ会に管理者や代表者も必ず参加し、運営に関する職員の意見についても聞く機会を設けている。	
			(外部評価) 全体会と各ユニット別の会議に施設長、管理者も参加し意見を聞き取っている。トイレの柵を設置したり、浴室リフトを取り付ける等、職員が働きやすい環境を整えるよう心がけている。年間の研修計画を作成し職員の技術や知識の向上に積極的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 介護職員処遇改善交付金制度も利用し、給与や職場環境の向上に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) グループホーム協議会主催の研修には必ず職員が参加できるように調整を行うとともに、資格取得の為の支援（スクーリング及び研修受講の為の勤務シフトの調整、休暇の付与）を実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修（相互訪問）を通して同業者と交流する機会を設け、他の施設の良いところを学ぶことにより、サービスの質の向上につなげている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に十分に利用者本人と話をする時間を確保し、不安や要望の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者本人と同様に、家族とも事前に十分に話をする時間を確保し、不安や要望の把握に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談受付の際は、当グループホーム利用が適切であるかどうかも含めて、他のサービス利用による支援についても助言・相談を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理の下ごしらえや洗濯物干しなど、日々の生活の知恵や工夫に学ぶことも多く、一年を通じて昔ながらの習慣や行事について職員が新しい知識を得ることもあり、ともに学び支え合う関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族からの相談には、誠意をもって職員もともに考え対応している。面会時には、経験豊富な職員を付けて、対応にあたっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 敬老の会など、地元での催しがあれば、参加を家族と相談したり、地方祭・お正月など親類が集まられるようなときは、気軽に外出を申し出やすい雰囲気を作るよう努めている。また、来客時は、お茶をお出しし、水入らずで過ごされるよう配慮している。 (外部評価) 地元出身の利用者が多いため、地域の行事に参加する機会を設け、利用者の状態に合わせて無理の無いように取り組んでいる。利用者、家族の希望があれば外出や正月、お盆の外泊の支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ホールでの共同作業やレクリエーションにより自然に孤立せず、入居者同士が支え合う関係ができており、職員は今の関係が認知症の進行等によって崩れないよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりが必要な入居者や家族さんには、利用が終了しても関係を断ち切らないようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各入居者に担当者をつけ、担当者は特に担当入居者の状況把握に努めている。、レベルの低下にて把握が困難な入居者も居られるが、できる限り本人の希望がかなうような支援をし、安心・安楽な環境の提供を図っている。 (外部評価) 利用者の希望や要望を聞き取るよう努めているが、身体状況の低下により聞き取りが難しくなっている。希望や意向の把握の困難な利用者については、家族の意見を聞いて利用者本位になるよう努めている。	利用者の高齢化、重度化に伴い取り組みは困難になってきているが、利用者本位の取り組みの継続を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に自宅に訪問し、本人や家族の方より情報収集を行っている。しかしながら不十分な点もある為、入居後も家族や知人の面会時など継続して情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日課計画に盛り込んだ共通、個別サービスを通じて入居者の状態把握に努め、変化があれば状況に応じて対処している。また内実を記録にとどめ今後に役立てている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の現状を日々観察し、毎月のスタッフ会で話し合っ て介護計画の見直しを実施、新規介護計画については家族に具申、説明し了解を得るようにしている。	
			(外部評価) 介護計画は担当者が家族の希望や要望を聞き取って創 案し、毎月のユニット会で意見交換し作成している。 3か月毎に評価しユニットで検討し、現状にあったプ ランに変更している。施設長、管理者、看護師は両ユ ニットの検討会に参加し全職員に情報を伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) プラン、ドゥ、チェック、アクションの繰り返しで 日々の様子を記録に残し、気づきがあれば職員間で報 告、連絡、相談を行い情報を共有するように努めてい る。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の希望を重んじて柔軟に対応するため、通 院、買い物等に職員が付き添う場合もあり、支援や サービスに努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日常生活活動レベルをより向上、生活上のニーズを充 足するために社会資源（民生委員さん、ボランティア さんによる絵手紙、マンドリン、紙芝居等）の導入を 試みている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期受診は家族付き添いで、行って頂いている。 家族が遠方の方は、看護師が同行受診し、家人へ状況 報告をしている。 (外部評価) かかりつけ医の病院受診は原則、家族にしてもらって いるが、ホームの看護師も付き添っている。利用者の 健康管理は3名の看護師を中心に、介護職員と情報を 共有しながら連携して行っている。夜間帯の緊急時も 看護師に連絡が取れる体制にしている。毎週訪問歯科 医が往診し口腔ケアに取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤の看護師を配置しており、日頃の体調管理や状態 変化に応じた支援を行っている。 看護師は、職員からの状況変化の報告をいつでも受け られるよう24時間体制で臨んでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時は看護師が同行し情報提供を行っている。 入院時は、様子観察を兼ねての訪問を行い、病院との 連携をはかっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の意向を第一に考え、施設でできる範囲の 説明を行い、文書として共有し、本人家族の望まれる 支援を行っている。 (外部評価) 利用者の重度化に伴い、医師との情報交換が多くなっ ているため、受診には看護師も付き添っている。医療 情報は申し送りノートに記載すると共に口頭でも伝達 している。医療的な処置が必要になれば利用者や家族 と話し合い、最善の対応をとるように心がけている。	利用者の重度化や家族の高齢化等の状況の変化によ り、ホームでの看取りを希望する利用者や家族も多 くなっていくと思われる。医療機関との連携や看護、介 護の連携等体制を再度見直したり、職員の研修等の取 り組みを強化する等、より一層の取り組みに期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、随時急変時の対応等についての勉強会を実施し、意識づけを行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し、定期的に訓練を行っている。運営推進会議時、災害対策の協力を地域の方に協力を得ている。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施し、内1回は夜間を想定し実際の勤務体制で行い、避難完了までの時間も計って行っている。運営推進会議で訓練の報告をし協力も得ている。設備についてもオール電化や難燃性の建材を使用し、スプリンクラーも現在設置中である。	避難訓練後の指摘事項や運営推進会議で検討した内容について、自主的な訓練を実施してみたり、安全点検を定期的実施してみる等、全職員が今以上に防災に対しての意識が持てるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として敬意を表し、本人の意思を大切に、丁寧な言葉かけにて、対応している。カンファレンスで利用者各個人の共有を行い、ケアの統一を行っている。 (外部評価) 職員は利用者の居室には声かけしてから入室する等、プライバシーに配慮している。機関誌に掲載する個人の写真や個人情報の使用については同意書を得るようにしている。管理者は排泄や入浴時等の支援のあり方について、気になる事はそのつど指導し、職員も真摯に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 視線を合わせた位置でのゆっくりした会話を心がけ、傾聴、受容に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の申し送りで、利用者の状況を共有し、各人の体調、意向に合わせた支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時などは、職員と一緒に服を選んだり髪を整えたりとおしゃれができるよう支援している。 また、散髪についてもなじみの美容院に行かれていた入居者さんもおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 煮込んだり盛り付けたりといった作業は難しいが、皮むきやもやしの根とりや食器拭きなど少しでも調理にかかわってもらえるよう支援している。 (外部評価) 利用者の負担にならないように見守りながら、職員と一緒に準備や後片付け等を行っている。調理担当の職員がおり、献立や買い物等任せている。中庭でのソーマン流し、家族会で一緒に食事したり、近くのレストランで外食したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者に応じて主食や副食の量を調整している。食事摂取量が少ない場合はヨーグルトやプリンなど本人が食べやすいもので補っている。 食事だけでなく水分も摂取量のチェックを行い、こまめな水分摂取を心がけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 職員見守りまたは介助にて毎食後口腔ケアを行っている。拒否された入居者さんには時間をおいて勧めるなどの対応を行い無理強いはしない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) こまめなトイレ誘導により、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。 また、安易におむつ使用を行わず、夜間においてもトイレに介助にて行くことのできる入居者さんについてはトイレ誘導を行うようにしている。</p> <p>(外部評価) 排泄チェックを行い利用者ごとの尿量を把握し、状態に応じてトイレ誘導を行ったり、尿取りパットの種類を変えたりしている。夜間も紙パンツと尿取りパットで対応しトイレ誘導している。誘導時の声かけ等プライバシーにも配慮している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘傾向の入居者さん多く、緩下剤を使っている方も多いが、朝の散歩や飲食物の工夫（ヒジキや冷たい牛乳等）にも積極的に取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 基本的に入浴日は決まっているが、受診前日や外出前、散髪等に入浴を希望する入居者はその都度柔軟に対応して個々に応じた入浴の支援をしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の重度化に伴い、利用者の安全と職員の介護負担の軽減のために簡易リフトを設置している。ユニットによって浴室の広さが違うため、利用者の状態に合わせてより快適な入浴ができるよう配慮され、ユニットに関係なく職員同士が連携して行っている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 体を清潔にし、一週間に一回シーツ替え、寝間着の交換して気持ちよく眠れるように支援している。一人一人の状況に応じて、日中でも希望されれば横になって休息していただくようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者のカルテの中に薬の説明シートを挟みいつでも職員が確認出来るようにしている。重要な薬については看護師より介護職員に詳しい説明、指導を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の力に応じて活かせる役割や楽しみなど気分転換ができるように日々支援している。喜びや張り合いのある日々を過ごしていただけるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 定期的に皆で遠方に出かけたり、日々近場を散歩するなど支援を行っている。又地域の催事物などには積極的に参加し地域の方との交流を深めるようにしている。	
			(外部評価) ホームの行事や外出等家族の協力は得られている。天気や気候に応じて、日常的にホームの周りを散歩している。地域の文化祭、運動会への参加も積極的に行っているが、介助の必要な利用者が多く全員での参加は困難になってきている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持を希望する入居者の方は一定額の金銭を持つて頂き職員がある程度把握している。買い物などで残金が少なくなれば、預かり金より補充をする。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) プレゼントが届いたらお礼の電話をかけたり、かかってきた電話を取り次いでいる。又入居者さんからの要請があれば電話をかけるなどの対応にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に合わせた絵手紙の作品や置き物、生け花や飾り物等で、その時期に合わせた空間を作っている。	
			(外部評価) 居間やトイレ、廊下等の広さが十分確保されており、車いすの利用者も移動がしやすい。広い洗面台が食堂の横にあり、手洗いや口腔ケアが行いやすくなっている。食堂の天井が高く、さらに間接照明でゆったりとした雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 入居者の方同志がコミュニケーションを取り易くする為に、ホールやテラスにベンチを設けたり、ホールを自由に行き来出来るようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者の使い慣れた物や好みのもなど家族の方に連絡し、持参して頂いて相談しながら本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 利用者は使い慣れた物や思い出の品を持参し、使い勝手良く配置されている。各居室には大きなクローゼットが備えられており、衣類や大きな物も整理整頓されている。畳の部屋が各ユニット2室あり、状態に合わせて入居時に決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者のできる事はしていただき自立した生活を送れるように安全な環境づくりができるよう工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501289
法人名	有限会社ミキハウス
事業所名	グループホームしおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島一丁目7番27号
自己評価作成日	平成22年11月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本的には、入居前後での生活の連続性を配慮し、入居者一人ひとりの個性・心身の状況等、どのような生活環境が大切であり、どの様に暮らして行くのが望ましいかを理解しながら、一人ひとりのペースに合った支援・ケアに努めている。
 例えば、不安・心配事を最小限に治める為に、慌ただしい生活リズムではなく、一人ひとりの生活リズムを尊重し、笑いの絶えない穏やかな生活を過ごして頂いています。
 また、地域の自治会に加入し、各種行事に参加すると共に加入する事で、災害等の緊急時についても、“ここにグループホームがある”事を地域の皆さんに承知してもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者にとって和やかで安心できる場所であるよう、利用者との信頼関係をしっかりと構築し、研修にも力を入れサービスの質の向上に全職員で努めている。家族会を年2回開催し、ホームの取り組みや利用者の様子を見てもらい、意見や要望を聞き取り取り入れるように努めている。地域との交流も運営推進会議を通じて行われており、地域の民生委員がボランティアで絵手紙教室を行ってくださっている。また、ホームの周りには他の介護事業所があり、お茶会等の交流もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームしおさい

(ユニット名) ユニット2

記入者(管理者)

氏名 伊藤 一徳

評価完了日 平成22年 11月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員で話し合いにて独自の理念をつくり、管理者及び職員は、その理念を常に念頭に置き、業務にあたるように努めている。	
			(外部評価) 地域との交流を理念に追加し地域の行事に参加するなど、つながりを大切にしている。職員と一緒に考えた理念が実践できるよう職員の体制を整え、利用者が笑顔で暮らせるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の自治会の行事などにも積極的に参加し、交流をするように努めている。	
			(外部評価) 地区の文化祭に出展する等、積極的に地域の行事に参加し関わりを持っている。近所の介護事業所の利用者を招いてお茶会を開くなどの交流を通じて、地域の福祉事業にも貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人達からの電話相談などにも積極的に応じている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、情報交換を積極的に行い、そこで出た意見は持ち帰り施設にて検討し、サービス向上につなげるようにしている。	
			(外部評価) 行事や研修、職員の異動等の細かな報告や様々な情報交換、参加者との意見交換を行っている。利用者家族の参加を中心に日程の調整を行っているため、開催回数や参加者のメンバー構成に課題がある。	前回の会議で上がった課題についての取り組みの状況報告等も記録に残せるよう様式等の検討を期待したい。また、開催回数を2か月に1回の割合で開催するよう努め、参加者の構成も多角的な意見を求められるよう色々な立場の方に参加してもらおう等の取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市役所担当者とは、運営推進会議以外においても、電話や介護保険申請などにかがった時などに、解らない事や困ったことについて相談したり助言を頂いている。 また、各種アンケートの回答についても、上記の様に助言を頂いている。	
			(外部評価) 毎年、市が行うアンケートに協力している。毎月、市担当者とは入居状況を報告している。また、毎月のグループホーム連絡会には市職員も参加し、ケアプラン、監査、加算、身体拘束等テーマを決め研修会を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間の防犯の為に夕刻より施錠をしているが、その他についての身体拘束につながる様なケアは、行っていない。	
			(外部評価) 身体拘束をしない方針を掲げ職員全員で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。管理者は普段から職員の声かけや介助の仕方について、身体拘束に当たるようなことがないよう気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内での虐待は考えていない。高齢者虐待防止法関連法についての外部研修などには、参加する事で外部研修での内容を報告する形をとっており、事業所内でも簡単な勉強会を実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及びスタッフは、成年後見制度や日常生活自立支援事業等、権利擁護に関する制度について研修やスタッフ会で学んでおり、必要な人については、それらを活用出来る様に支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には相当な時間をかけ、双方が家族や入居者の不安及び疑問点の解消に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意見については、介護相談員を受け入れる事により、不満等を出来るだけ聞き出せる体制をとっている。 家族については、面会時や家族会において意見や要望をお聞きしている。また、玄関の目立つ場所に意見箱を用意し、そこからも伺えるようにしている。 (外部評価) 家族会を年2回開催し利用者の様子を見てもらい、意見や要望を聞き取っている。毎回10家族程度が参加している。また、普段の面会についても可能な限り来てもらえるよう伝え、預かっている現金の確認をしてもらう等、家族との関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者は、月三回のスタッフ会に参加し、運営全般に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、施設運営に反映させている。</p> <p>(外部評価) 全体会と各ユニット別の会議に施設長、管理者も参加し意見を聞き取っている。トイレの柵を設置したり、浴室リフトを取り付ける等、職員が働きやすい環境を整えるよう心がけている。年間の研修計画を作成し職員の技術や知識の向上に積極的に取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 介護職員処遇改善交付金制度も利用し、給与や職場環境の向上に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) グループホーム協議会主催の研修には、必ず職員が参加できるように調整を行うとともに、資格取得の為の支援（スクーリング及び研修受講の為の勤務シフトの調整・休暇の付与）を実施している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 相互研修（相互訪問）を通して同業者と交流する機会を設け、他の施設の良いところを学ぶことにより、サービスの質の向上につなげている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に入居者本人と十分に話をする時間を取り、不安や要望の把握に努めている。入居後についても、本人の思いをよく踏まえてケアプランにも反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居者本人と同様に、家族とも入居前に十分に話を する時間を取り、不安や要望の把握に努めている。 また、家族の面会時には、本人の日頃の様子・健康状 態等についても詳しく説明させてもらっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 相談受付時は、当グループホーム利用が適している か、どうかを含め、他のサービス利用による支援につ いても助言・相談を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 日常的な作業の中で、本人が出来る作業はスタッフ と共にして頂いて、コミュニケーションを深め、関係 作りに努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方からの相談には誠意を持って対応し面会時 には、積極的に話を伺っている一方で、本人の不安解 消や本人の思いを尊重する為に、色々と協力をお願い する事があるが、快く協力して下さっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 面会者の把握と、その方々への声かけに配慮してい る。敬老会や地元での催し会への参加についても、家 族と相談し、連休・彼岸・盆・正月等の国民的行事に についても行ける様に十分に配慮している。 (外部評価) 地元出身の利用者が多いため、地域の行事に参加する 機会を設け、利用者の状態に合わせて無理の無いよう に取り組んでいる。利用者、家族の希望があれば外出 や正月、お盆の外泊の支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者全員が出来るだけ参加可能なレクリエーションを提供し、皆で仲良く楽しめる様に職員が調整役となり、支援出来る様に努めている。 また、入居者同士の状況変化について、出来るだけ早く把握し対応出来る様に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入居者が退居しても入居者や家族との関係を断ち切らないように必要に応じて、相談や支援を心掛けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各入居者に担当者を付け、特に担当入居者の現状把握に努めている。レベルの低下で把握困難な入居者も居られるが、これまでに把握した情報を活かしながら現状に合った安心・安楽な生活環境の提供を行っている。 (外部評価) 利用者の希望や要望を聞き取るよう努めているが、身体状況の低下により聞き取りが難しくなっている。希望や意向の把握の困難な利用者については、家族の意見を聞いて利用者本位になるよう努めている。	利用者の高齢化、重度化に伴い取り組みは困難になってきているが、利用者本位の取り組みの継続を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に本人・家族を訪問し、本人や家族より情報を集めているが、新たな疑問点が生じた場合には、家族・知人の面会時等で、継続した情報収集を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りの徹底を図り、職員間での入居者の把握に努めながら現状を知ることで、生活のリズムや身体状況について、事前に把握する様に努めている。 また、スタッフ会で意見を出し合い現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 一ヶ月毎にサービス担当者会議、三ヶ月毎のモニタリング等で、介護計画の見直しを行い、新規介護計画については、家族や本人に説明し印鑑をもらう様になっている。 (外部評価) 介護計画は担当者が家族の希望や要望を聞き取って創案し、毎月のユニット会で意見交換し作成している。3か月毎に評価しユニットで検討し、現状にあったプランに変更している。施設長、管理者、看護師は両ユニットの検討会に参加し全職員に情報を伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の水分摂取量・排泄・入浴等のチェック欄を設け把握に努めると共に気づきを記録に残し、プランや日頃のケアに活かせるように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院は基本的に家族に依頼している。家族の都合がつかない場合は、職員が付き添い臨機応変に対応している。 入居者の状態の変化にともない、普通食で対応出来なくなった入居者について、ミキサー食・キザミ食等の新たな支援で取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員の方々やボランティアとのつながりを大切にしており、絵手紙は月2回、毎月の誕生日会でもマンドリンや紙芝居・キリスト教など、多くのボランティアの方々に来て頂いております。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期受診は家族付き添いで行って頂いている。家族が 遠方の方は看護師が同行受診し、家人へ状況報告をし ている。 (外部評価) かかりつけ医の病院受診は原則、家族にしてもらって いるが、ホームの看護師も付き添っている。利用者の 健康管理は3名の看護師を中心に、介護職員と情報を 共有しながら連携して行っている。夜間帯の緊急時も 看護師に連絡が取れる体制にしている。毎週訪問歯科 医が往診し口腔ケアに取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤の看護師を配置しており、日頃の体調管理や状態 変化に応じた支援を行っている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時は看護師が同行し情報提供を行っている。 入院時は、様子観察を兼ねての訪問を行い、病院との 連携をはかっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化が進んだ場合の対応については、契約時に家族 に説明を行っている。 (外部評価) 利用者の重度化に伴い、医師との情報交換が多くなっ ているため、受診には看護師も付き添っている。医療 情報は申し送りノートに記載すると共に口頭でも伝達 している。医療的な処置が必要になれば利用者や家族 と話し合い、最善の対応をとるように心がけている。	利用者の重度化や家族の高齢化等の状況の変化によ り、ホームでの看取りを希望する利用者や家族も多 くなっていくと思われる。医療機関との連携や看護、介 護の連携等体制を再度見直したり、職員の研修等の取 組みを強化する等、より一層の取り組みに期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に看護師の指導のもと、会を開き、応急処置や初期対応の訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の防災訓練にて、災害時の避難・誘導について訓練を実施するとともに、自治会を通じて地域の方々にも協力を呼びかけている。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施し、内1回は夜間を想定し実際の勤務体制で行い、避難完了までの時間も計って行っている。運営推進会議で訓練の報告をし協力も得ている。設備についてもオール電化や難燃性の建材を使用し、スプリンクラーも現在設置中である。	避難訓練後の指摘事項や運営推進会議で検討した内容について、自主的な訓練を実施してみたり、安全点検を定期的実施してみる等、全職員が今以上に防災に対しての意識が持てるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として尊厳を念頭に置き、日常生活全般での関わりについて、スタッフ会やケアカンファレンス等で職員間の意識向上に取り組んでいる。 (外部評価) 職員は利用者の居室には声かけしてから入室する等、プライバシーに配慮している。機関誌に掲載する個人の写真や個人情報の使用については同意書を得るようにしている。管理者は排泄や入浴時等の支援のあり方について、気になる事はそのつど指導し、職員も真摯に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人と目線を合わせ、本人の話を良く聞きながらゆっくりと短い言葉で解りやすく説明して、意思の疎通に努めている。また、本人の思いを大切に考え、「どうしたのですか。」と尋ねながら自己決定出来る様に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各入居者の皆さんが出来る事を重要視しながら、役割を持ったメリハリのある生活が送れる様に支援をしている。また、転倒の危険性がある入居者には、出来るだけ職員が付き添い自由に行動して頂ける事により、各入居者の行動範囲を広く維持し、本人の自由な思いを大切にする支援を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に理髪店の方が来られているが、本人の希望を聞き入れた上で、カットをしてもらっている。起床時についても自分で出来る人には、自由に好みの整髪をしてもらっている。また、着替えについても本人のお気に入りの衣類を選択されている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その日の献立によって下ごしらえをして頂き、出来上がった料理についても色々話しをされています。後片付けも、職員と一緒に分擔しながら行っている。 (外部評価) 利用者の負担にならないように見守りながら、職員と一緒に準備や後片付け等を行っている。調理担当の職員がおり、献立や買い物等任せている。中庭でのソーメン流し、家族会で一緒に食事したり、近くのレストランで外食したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量などチェック表に記入し、毎日の摂取量が解る様にしている。また、献立表を見ながら同じものにならないように気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、入居者一人ひとりに合ったケアを行い、口腔内の清潔保持を心掛けている。週に一回以上の訪問歯科診療をしてもらっており、歯周病等の疾患についても、Drからの意見を良く聞きながら支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツの利用は出来るだけ控え、入居者に応じたトイレ誘導や排泄用品を使用し、自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェックを行い利用者ごとの尿量を把握し、状態に応じてトイレ誘導を行ったり、尿取りパットの種類を変えたりしている。夜間も紙パンツと尿取りパットで対応しトイレ誘導している。誘導時の声かけ等プライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘傾向の入居者については、受診時での処方された緩下剤を服用されているが、朝の散歩や飲食物の工夫（ヒジキや常温の牛乳等）にも積極的に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的に入浴日は決まっているが、外出前日や散髪後など臨機応変に入浴をすすめている。 また、本人の希望があれば、入浴日に限らず入浴してもらっている。	
			(外部評価) 利用者の重度化に伴い、利用者の安全と職員の介護負担の軽減のために簡易リフトを設置している。ユニットによって浴室の広さが違うため、利用者の状態に合わせてより快適な入浴ができるよう配慮され、ユニットに関係なく職員同士が連携して行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の生活リズムに合わせて、昼寝の声かけや自室で休んで頂けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者のカルテには、薬の説明シートを挟んでおり、いつでも確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 調理の手伝いや洗濯たみといった役割作りは勿論、家でラジオや人形での癒しをされていた入居者には、ラジオや人形を持って来て頂くなど、外出やレクリエーション以外でも気分転換が図れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には、散歩に出かけている。買い物や外食については、高齢化も進み以前の様に行えていないが、家族さんにも協力して頂きながら、少しでも多く出かけられるよう支援している。 (外部評価) ホームの行事や外出等家族の協力は得られている。天気や気候に応じて、日常的にホームの周りを散歩している。地域の文化祭、運動会への参加も積極的に行っているが、介助の必要な利用者が多く全員での参加は困難になってきている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は原則施設が行っていますが、本人希望により、近くのコンビニなどへの買い物や外出時には、本人に手渡し自由に使って頂く。入居者によっては、家族了解のうえで小額で本人が管理されている方もおおいで。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望を尊重し、家族・友人への電話も行っている。又、年賀状や暑中見舞いなど職員が代筆する事もあるが、出来るだけ本人に自分の思いを書いて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居者の皆さんと一緒に、季節の飾り物などを作りながら、コミュニケーションを取り、季節感を出す工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居間やトイレ、廊下等の広さが十分確保されており、車いすの利用者も移動がしやすい。広い洗面台が食堂の横にあり、手洗いや口腔ケアが行いやすくなっている。食堂の天井が高く、さらに間接照明でゆったりとした雰囲気が感じられる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホール・ベランダ・テントの下に椅子を設置して、入居者の皆さんが思い思いの場所で、他の入居者の方ともコミュニケーションを取りながら楽しく過ごせる様に工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居者の方が使い慣れた物、必要なものがあれば家族の方に連絡・相談した上で持参して頂き、入居者の方が居心地良く過ごせるように工夫しています。</p> <p>(外部評価) 利用者は使い慣れた物や思い出の品を持参し、使い勝手良く配置されている。各居室には大きなクローゼットが備えられており、衣類や大きな物も整理整頓されている。畳の部屋が各ユニット2室あり、状態に合わせて入居時に決めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 入居者それぞれに個人差があり、出来る事と出来ない事があります。出来る事については、なるべく本人にして頂き、自立した生活が送れる様に働きかけ、支援や工夫をしています。</p>	